



第2章 歴史文化を活かしたまちづくり支援と自治体史の編纂協力

木村, 修二 ; 河島, 真 ; 市沢, 哲 ; 加藤, 明恵 ; 前田, 結城 ; 井上, 舞 ; 川内, 淳史 ; 室山, 京子 ; 松下, 正和 ; 久野, 洋 ; 奥村, 弘

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 16(平成29年度事業報告書):26-43

(Issue Date)

2018-03-16

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81010243>



第2章

歴史文化を活かしたまちづくり支援と自治体史の編纂協力

兵庫県文化遺産防災研修会

この企画は、地震や風水害などの自然災害から地域の文化財や展示物を守るため、兵庫県内の文化財担当職員や博物館・資料館学芸員らが一同に会し、防災対策を話し合い、大規模災害発生時の一時保管や修復などの県内相互支援体制の構築に向けた、情報共有の場として開催した。

この企画へむけては、昨年度の3月9日に神戸大学において、兵庫県教育委員会文化財課、神戸市教育委員会文化財課、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、歴史資料ネットワーク、科研(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて」研究グループ、および事実上の呼びかけ人である内田俊秀氏(文化遺産防災ネットワーク有識者会議座長/京都造形芸術大学名誉教授)が集まり、第1回目の協議を行っている。その後何度か協議を重ね、7月5日にキックオフ研修会、11月28日に第1回目の地域開催である播磨西研修会を開催している。以下、各研修会について、報告する。

平成29年7月5日(水)キックオフ研修会

農学研究科B棟101教室を会場に、本学人文学研究科地域連携センター、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会の三者主催により兵庫県文化遺産防災研修会を開催した(COC+ひょうご神戸プラットフォーム協議会共催)。

なお本会は、研修会としての性格上、兵庫県教

委を通じて県内の各自治体、および神戸市教委を通じて神戸市の文化財担当者に参加を呼びかける形をとり、事前申し込みで22区市町から42名の申し込みがあったが、そのほか4名の外部参加者、スタッフも合わせて参加者数は27機関57名となった。今回は一般からの参加は募っていなかったが、将来、文化財保存にかんする就職を希望する本学の学部生・院生の聴講は歓迎することとし、結果的には3名の学部生の聴講があった。

研修会の冒頭では、本会の開催実現にあたり主催三者の間に立って多大な骨折りの労をとられた内田俊秀氏より挨拶および本会の趣旨説明があった。

主催: 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター・兵庫県教育委員会・神戸市教育委員会
共催: COC+ひょうご神戸プラットフォーム協議会(学研)
協力: 歴史資料ネットワーク・科学研究費基盤研究(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—」(研究代表者: 内田俊秀) 研究グループ

兵庫県文化遺産防災研修会

プログラム(予定)

- 12:30 開場・受付開始
- 13:00~13:15 挨拶 内田俊秀(文化遺産防災ネットワーク有識者会議座長)
- 13:15~13:45 山下史朗(兵庫県教育委員会文化財課課長)「兵庫県の文化財防災体制について(仮)」
- 13:45~14:15 清水隆(神戸市危機管理室計画担当課課長)「神戸市の地域防災体制について」
- 14:15~14:30 休憩
- 14:30~15:00 奥村弘(神戸大学地域連携推進室室長)「地震等災害後の文化遺産防災を進めるために」
- 15:00~15:30 松下正和(神戸大学地域連携推進室特命准教授・歴史資料ネットワーク副代表)「兵庫県内での風水害による水損史料救出活動について」
- 15:30~16:30 ディスカッション・質疑応答
- 16:30~16:35 閉会の辞 千穂浩(神戸市教育委員会文化財課課長)

地震や風水害などの自然災害から地域の文化財や展示物を守るため、兵庫県内の文化財担当職員や博物館・資料館学芸員らが防災対策を話し合い、大規模災害発生時の一時保管や修復などの相互支援体制の構築に向けた、情報共有の場として本会を開催します。

将来、文化財保存にかんする就職を希望する学生・院生の聴講も歓迎します。

日時: 平成29年7月5日(水) 13:00~16:35
場所: 神戸大学大学院農学研究科 B棟1階101教室

※参加人数が少ない場合は人文学研究科C棟5階大会議室へ変更します(大学までのアクセス)
※会場は「JR有明線」最寄り駅(西)C33系駅「御影駅」(行楽乗降)神戸大学(西)徒歩3分

〈お問い合わせ〉 農学研究科地域連携センター
COC+「歴史と文化」推進員 木村優二
〒657-8501 神戸市灘区六甲中央1-1-1
TEL 078-805-5570 (内線) FAX 078-803-5566
E-Mail kimura.schuj@silver.kobe-u.ac.jp

引き続き講座に入り、まず第1講として兵庫県教育委員会文化財課長の山下史朗氏より「兵庫県の文化財防災体制について」と題し、兵庫県を中心とする文化財防災体制確立へむけた取り組みの経緯と、現在ではすべての文化財（未指定含む）を対象に近畿圏レベルで相互応援する被災対応ガイドラインが関西広域連合で議論されていることが紹介された。第2講は神戸市危機管理室計画担当課長の清水陽氏より「神戸市の防災体制について」と題し、神戸市の地域防災計画の取り組みが報告され、近い将来には市教委文化財課とも連携して計画に文化財への対応を盛り込んでいけるよう話し合っ行ってきたい旨を述べられた。休憩を挟み第3講として奥村弘より「地震等災害後の文化遺産防災を進めるために」と題し、阪神淡路大震災から東日本大震災にいたる大規模地震災害や2004年以降の大規模水害時の文化遺産保全活動の取り組みを歴史資料ネットワークの活動とともにあつて、被災地の再建には過去と現在の記憶を未来につなぐ文化財を「地域歴史遺産」として日常的に保全していく事の重要性が述べられた。最後に第4講として本学地域連携推進室特命准教授の松下正和より「兵庫県内での風水害による水損史料救出活動について」と題し、2004年以来本格的に対応を始めた被災資料の保全活動について具体的な報告があった。

その後シンポジウム形式のディスカッションが行われ、議長は奥村が務め、フロアからの質問（兵庫県南海トラフ巨大地震・津波被害想定、文化財罹災状況調査ガイドライン、県内文化財の所在状況調査などについて）に講師陣が答える形で進められた。また市町の文化財担当が災害時に他の業務に廻されたあと本来業務に復帰するタイミングをめぐる議論がなされ、各自治体の地域防災計画の中に文化財への対応が盛り込まれていることの必要性、県や市町が日常的にネットワークを構築しておくことの重要性などが確認された。

最後に、神戸市教育委員会文化財課長の千種浩氏より、阪神淡路大震災以来、行政内部の世代交代も進む一方で防災対策はあまり進んで来なかつたのに対し、史料ネットなど行政外の新しい動きが進展してきている中、行政でもそうした動きを総合的に捉える必要があることなどが述べられ、閉会の挨拶とされた。

平成 29 年 11 月 28 日 (火) 播磨西研修会

本企画では、当初より兵庫県内の各地で、地域の実情に応じた内容での研修会を連続的に開催してゆくことを方針としていたが、その第1回目として播磨西地区を対象とする研修会を企画した。会場は、姫路市の日本城郭研究センターの2回大会議室を借り、13名の各自治体文化財担当者の参加があった（報告者・スタッフ含め20名参加）。

会の冒頭では、主催者を代表して奥村弘より、挨拶および趣旨説明があった。引き続き講座に入り、まず第1講として佐用町教育委員会の藤木透氏より「2009年佐用町大水害時の水損文化財レスキュー」と題した報告がなされた。藤木氏は、水害の概要と文化財レスキューの展開を具体的に述べられ、自らの体験をもとに、職員数減少という自治体が共通してもつ問題点とともにそれでもやはり日常的な備えが必要なことを強調された。

兵庫県立大学人文科学研究科地域連携センター、兵庫県教育委員会、兵庫県立歴史博物館、神戸大学地域連携推進室、歴史資料ネットワーク、歴史資料ネットワーク、国立文化財機構文化遺産防災ネットワーク、佐用町教育委員会、兵庫県教育委員会教育課企画総務室副室長、2009年佐用町大水害時の水損文化財レスキュー、内田俊秀（京都造形芸術大学名誉教授・国立文化財機構文化遺産防災ネットワーク有識者会議議長）、佐用町内の文化財ハザードマップづくり、松下正和（神戸大学地域連携推進室特命准教授・歴史資料ネットワーク副代表）、水損史料の吸水乾燥法について、安信光浩（姫路城管理事務所係長）、山下史朗（兵庫県教育委員会文化財課課長）、兵庫県の文化財防災体制について、奥村弘（神戸大学地域連携推進室室長）、阪神・淡路大震災から現在に至るまでの文化財防災体制の全国的動向、休憩、意見交換の時間、閉会のご挨拶

日時：平成 29 年 11 月 28 日 (火)
13:00 ~ 16:50
場所：日本城郭研究センター
2階大会議室

日本城郭研究センター
兵庫県立歴史博物館
姫路市立歴史博物館
姫路市立中央図書館
姫路市立図書館
姫路市立中央公民館

〓お買い得〓
兵庫県立大学人文科学研究科地域連携センター
COC「食卓文化」特産品 奥村 由美 木村
TEL 867-8361 神戸地域連携推進室 奥村弘
TEL 078-803-5670 (直) FAX 078-803-5566
E-Mail kimura.schuj@allver.kobe-u.ac.jp

続いて、内田俊秀氏が「河川氾濫と文化遺産の被害予測」と題し、佐用川の水害シミュレーションに基づいたハザードマップづくりの意義をめぐって報告した。続いて、松下正和氏が「水損史料の吸水乾燥法について」と題し、応急的なものから専門的なものまで、さまざまな吸水乾燥方法について解説し、特に応急的で簡便なキッチンペーパーを使用した吸水方法を実演した。休憩を挟んで、次に姫路城管理事務所の安信光浩氏より「姫路城の防災体制」について報告がなされ、続いて山下史朗氏より「兵庫県の文化財防災体制について」、さらに奥村弘より「阪神・淡路大震災から現在に至るまでの文化財防災体制の全国的動向」と題して報告がなされた。意見交換の時間では、奥村が司会となって、参加者一人一人の自己紹介を兼ねる形で感想を含め各地域における防災体制の現状や課題などが出された。

最後に、主催者を代表して兵庫県教育委員会の山下氏より、自治体の文化財担当職員が、災害時だけでなく、日常的なつながりを持っておくことが一番大事で、兵庫県の歴史文化基本構想の中で様々な活動が可能なので積極的に活用してもらいたい。いろいろな形で連携していることが重要であることを改めて認識したことなどを述べられ、閉会の挨拶とされた。

次回以降は、未定ながら、兵庫県内の各地での研修会を展開していきたいと考えている。

兵庫県地域創生局地域遺産室との連携

兵庫県は、本年度に地域遺産活用方策検討委員会設置要綱を策定し、県内の地域遺産のデータベース化を行うとともに、その活用方針を検討し、県民のふるさと意識の醸成と地域活性化を図ることを目的として、地域遺産活用方策検討委員会を設置した。2017年9月12日、兵庫県庁において委員会の第1回会議が開かれた。この委員会で

は、以下のことが協議された。(1) 県内の地域遺産の洗い出し・整理に関すること。(2) 県内の地域遺産の価値付けに関すること。(3) 県内の地域遺産の活用方針に関すること。(4) その他、県内の地域活性化に向けた地域遺産の活用方針に関すること。この委員会の委員長に、奥村が就任し、年度内に一度の現地調査(10月17日、神子畑・明延)と、三度の委員会(9月12日、12月21日、3月13日)が持たれた。当初、本年度のみの予定であったが、30年度も引き続き本委員会では討議をつづけ、兵庫県の地域遺産についての新たな方針を策定するための基礎作業を進めることになっている。

(文責・奥村弘)

兵庫県地域創生拠点形成支援事業(地域創生拠点を活用する他大学等の活動支援)

本事業は、兵庫県地方創生局が企画したもので、COC+の拠点大学として本学と連携関係にある園田学園女子大学地域連携推進機構からの勧誘により応募したものである。

具体的には、園田学園女子大学が兵庫県地域創生拠点形成支援事業を受けて設置した県下香美町^{おじろ}小代地区にある園田学園女子大学香美町サテライトスタジオが入っている建物の2階に、香美町教育委員会が管理している旧『美方町史』編さん関係資料が未整理状態で保管されており、その整理・保全と活用を同施設を活用して行わないかというものだった。これらを「地域歴史遺産」として活かしていくための準備作業をこの助成を利用して行おうというものである。そうした経緯もあり、本事業は終始園田学園女子大学との緊密な連携の元に進められた。補助金の内定は5月29日付で兵庫県地方創生局名義で通知があり、さらに6月1日付で但馬県民局名義による交付決定通知が届いた。

旧『美方町史』編さん関係資料とは、昭和55

年（1980）年に刊行された『美方町史』の編さんにあたってまとめられたデータや、編さん室によって収集された資料が、編さん事業の終了とともに段ボール箱などに入れられたまま永く放置されていたもので、多くは『美方町史』の稿本や編さんに携わった担当者の調査ノートなどからなっているが、中には香美町小代区に神水地区^{かんずい}の区有文書の一部とおぼしきものや、同区貫田地区の個人家文書などの古文書現物も含まれていた。また、昭和44年（1969）頃、兵庫県が行った小代地区民俗資料緊急調査の報告書である『小代』（兵庫県教育委員会、1970年）の挿入写真の原板である写真プリントも含まれていた。内容については、後述する。

以下、事業の展開について、順を追って述べる。

6月4日に香美町サテライトスタジオの開所式が、隣接する香美町小代地域局で開催されたが、そこへ参加することを兼ね、第1回目の調査を行った。このときには、神大の院生1名（山本康司君）と学部生1名（磯野伶介君）が同行した。この時の調査では、旧『美方町史』編さん関係資料の全容を掴むための概要調査を行い、その結果16の容器からなる資料群であることが確認された（それぞれ箱A～箱Pとした）。

これに基づき、次に第2回目の本格調査を7月29日と30日の両日に実施した。同行者は、地域連携センターから井上舞と院生の山本君だった。点数は相当多いと思われたため、事業期間中に詳細な目録作成作業は困難と判断し、今年度の調査では最低限点数を把握することができるような概要目録を作成することを目指したが、結果的にはかなり内容も把握できるものがあった。調査の2日目には、現場に到着された大江篤教授ほか園田学園女子大学のスタッフや香美町教育委員会の石松崇さんらと今後の打ち合わせも行った。

大学の夏期休暇中である8月25日から27日にかけて、第3回目となる本格調査を実施した。この時には、事業代表者の奥村の参加もあり、また学部生の磯野君、高井佑人君、河井瞳子さん、院生の山本君、小川浩功君、地域連携センター井

上、地域連携推進室特命准教授の松下正和氏（後述）の参加も得た。この時の宿泊所は、園田学園女子大学のお取りはからいいただき、同学の研修施設である大岡山グリーンキャンパス（豊岡市日高町大岡）を利用することができた。作業は、前回調査の続きを基本とし、一部は撮影作業も始めた。なお、前述の民俗資料緊急調査報告書『小代』挿入写真のうち一部が湿気による固着状態となっていたため、特にお願いをして松下氏に写真の修復、剥離作業を依頼し、同行いただいた。また、この機会に参加した学生達へ資料の修復作業のレクチャーなども松下氏によって行われた。

本来なら夏の調査で作業を終える計画だったが、前述のように資料群が大部だったため追加の調査が必要となり、11月3日～4日に第4回目となる調査を実施した。参加は、木村のほか井上、山本君の3名。この調査の結果、資料のほぼすべてを目録に取ることができたが、なお、『小代』挿入写真の修復が残った。

12月26日と27日にも松下氏の同行を仰いで追加調査を実施し、『小代』挿入写真の修復および、主要資料の写真撮影を行った。ただ、今次の調査でも修復すべきものが残ったため、香美町教育委員会の石松氏に、神戸大学への借用を要請した。石松氏からは快諾を得たため、大学で作業を続けることになった。

なお、7月の第2回調査の際に、香美町教委の石松氏のご案内のもと、香美町村岡地域局に保管されている旧『村岡町史』編さん関係資料の見学もおこなった。こちらの方は目録などがすでにできており、未調査のものはほとんどないようだったが、温湿度管理のない状態での原文書保存が行われているため、保存措置を今後講じる必要がある。

本年度の調査の結果、旧『美方町史』編さん関係資料は、932件にのぼる資料群で、前述のように未整理状態だった古文書原本を含むものであった。

以上のように今年度の事業は、大部な旧『美方町史』編さん関係資料の整理に終始し、地域への

成果還元を含む、活用は次年度以降に課題として残された。但し、本稿執筆時点ではまだ実施されていないが、平成30年3月18日(日)に、今年度の成果を少しでも地元へ還元すべく、園田学園の大江教授と連携しての成果報告会を予定しており、今後本資料群の「地域歴史遺産」化への足がかりとしたいと考えている。

(文責・木村修二)

神戸市との連携事業

1. 神戸都市問題研究所・神戸市文書館との連携事業

公益財団法人神戸都市問題研究所・神戸市文書館との間で、2006年度から共同研究「歴史資料の公開に関する研究」を継続して行っている。主な内容は、①神戸市文書館に収集・所蔵される歴史資料の整理、調査、さらに公開、活用のための土台作り、②神戸市文書館の来館者に対するレファレンスサービス(特に古文書の解説)、③毎年秋に開催される企画展への協力、の3つである。③については、本年度、11月6日(月)から11月19日(日)まで神戸開港150年・明治150年関連施策企画展「近代神戸の開かれた六甲山」が開催されたが、これには企画段階から参加するとともに展示パネルの一部を作成した。

また、地域連携センター事業責任者・奥村弘らが監修を務める『新修神戸市史』生活文化編(仮題)の調査・執筆が進められた。

(文責・河島真)

2. 「神戸村文書の研究と成果の公開事業

神戸村文書の読解、研究を行い、その成果の普及を市民向けの古文書講座ではかった。

- ・11月13日(月)18～20時 於こうべまちづくり会館

「神戸村文書」を読む会

神戸市立中央図書館が所蔵する「神戸村文書」は、江戸時代後期の神戸村の様子を私たちに生き生きと伝えてくれます。神戸村に生きた人々の息吹を、少しずつ古文書を読み解きながら感じてみませんか。

今回講座は小グループに分かれて古文書を読んだのちに、講師の解説を聞くという形式で行います。グループで読むときには、助手として大学生や大学院生が解説のお手伝いをしますので、初心者の方も安心してご参加下さい。

講座は4回連続で、4回目は中央図書館で「神戸村文書」の現物の見学も予定しています。ふるってご参加下さい(定員は20名、受講料は無料です)。

第1回 11月13日(月)18時～20時
@こうべまちづくり会館 会議室

第2回 11月20日(月)18時～20時
@こうべまちづくり会館 多目的室

第3回 11月27日(月)18時～20時
@こうべまちづくり会館 会議室

第4回 12月2日(土)15時～17時
@神戸市立中央図書館

参加希望の方は、以下まで往復はがきでお申し込みください。
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学大学院人文学研究科 地域連携センター「神戸村文書を読む」係 (11月1日までに必着)

主催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター・神戸市教育委員会
共催：神戸市立中央図書館

- ・11月20日(月)18～20時 於こうべまちづくり会館
- ・11月27日(月)18～20時 於こうべまちづくり会館
- ・12月2日(土)15～17時 於神戸市立中央図書館

(文責・市沢哲)

包括協定にもとづく灘区との連携事業

本年度は灘区と連携した活動はなされなかった。なお、2018年2月現在の『篠原の昔と今』(2005年度発行)、『水道筋周辺地域のむかし』(2006年度)の残部は共に約230部となっている。わずかにはあったとはいえ郵送による配布依頼はかなり少なかった。

(文責・木村修二)

神戸を中心とする文献史料所在確認調査

1. 文献資料所在確認調査

本年度該事業に関わる主な事項は以下の通りである。

①調査：今年度本事業に関連する新規および継続中の調査はなかった。

②中央区：神戸北野美術館における展示協力

神戸北野美術館での展示は現在も継続してきたが、今後パネル展示への切り替えなど、同館と協議してゆきたい。

2. 神戸大学附属図書館との連携

昨年度に引き続き、人文学研究科院生で日本中世史専攻の山本康司君に文書の整理作業に当たってもらった。本年度の成果としては、「湯浅家（大黒常是）文書」の整理が完了し、附属図書館 HP デジタルアーカイブ「神戸大学附属図書館所蔵郷土文書類目録」にデータベースが収録されたことが挙げられる。これで大部な文書群の整理はほぼ終了したため、今後はこれまで整理済みのものを見直しと、公開にむけての段階に移ることになる。図書館と協議をしつつ進めていきたい。

(文責・木村修二)

一般財団法人住吉学園との連携事業

1. 一般事項

住吉歴史資料館において、専門委員として同館の推進事業に関わった。主に住吉村横田家文書中の近世文書および同館所蔵吉田家資料を翻刻した。このほか、9月から月1回、事業推進委員・菟原茶道会より参加者を募り古文書勉強会を開

催した。『住吉歴史資料館だより』15号に、「伊丹郷の酒造りと領主近衛家一京都に上った伊丹酒一」を寄稿した。また、2月12日に同館において歴博共同研究「『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究」第4回研究会が開催され、報告「吉田道可「道具帳」について」を行った。

(文責・加藤明恵)

2. 阪神・淡路大震災関係聞き取り調査

2017年3月30日、『阪神・淡路大震災資料集Ⅱ 住吉の記憶「住吉西区と阿彌陀寺」』発行した。引き続き住吉地区における阪神・淡路大震災関連の聞き取り調査を実施継続しており、今年度末に『阪神・淡路大震災資料集Ⅲ』が発行される見込みである。

(文責・佐々木和子)

協定にもとづく小野市との連携事業

本年度より「小野地区歴史調査及び伊藤家文書を活用した小野市幕末・明治期の歴史研究」という課題名による連携を開始した。1年目となる2017年度は、小野市立好古館において2018年2月17日から4月8日にかけて開催される企画展「小野藩士族が見た西南戦争」（同館・神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター共催）に際しての史料展示の実施協力を中心に事業を展開した。同館所蔵伊藤家文書とは、旧小野藩家老を務め、維新後小野町戸長や初代小野村長を輩出した家の文書である。上記の企画展は2019年まで連続して開催される予定だが、ここでは明治零年代から十年代において、大阪鎮台や近衛砲兵として佐賀の乱などの土族反乱や西南戦争に出征した伊藤欣平の書簡を中心に展示されることになっている。本センターは、この展示に協力を今後も継続する予定となっている。

なお、展示会に向けての準備として、9月21

日に同館内で調査をしたところ伊藤家文書より新出の「飾磨県会議録」が発見された。本史料については近日記者発表をおこなう予定である。

(文責・前田結城)

連携協定にもとづく朝来市との連携事業

2005年3月に朝来郡生野町と締結された協定は、同年4月の市町村合併により朝来市に引き継がれた。以降、おもに市内の古文書の整理・保存・活用にかんする活動を行っている。本年度については、次の事業を行った。

1. 民間所在資料の調査・保全

①石川家文書整理会

昨年度に引き続き、生野書院において石川家文書整理会を開催し、地域住民とともに同家の蔵書整理を行っている。月2回の整理会で蔵書の目録作成と写真撮影を行い、平成30年3月に、これまでの成果をまとめた目録集を発行する予定である。

②山田家文書の調査・成果報告

今年度は、地域住民を交えた整理会は実施しなかった。ただし、山田家文書の調査については継続して実施した。調査の成果については、奥銀谷自治協議会かながせの郷での展示「山田家文書からみる生野の明治時代」(平成30年3月3日～21日)において地域に還元した。

なお、①・②については、奥銀谷自治協議会が受けている、平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産総合活用推進事業)および平成29年度但馬地域活性化推進事業を活用した。

③海崎家文書の調査

朝来市役所生野支所からの要請により、同市生野町口銀谷にある旧海崎医院内の資料調査を行った。今年度は、資料の搬出および簡易整理を行った。次年度以降、写真撮影や目録の作成を進めて

いく予定である。

④多々良木地区区有文書の整理

多々良木地区の区有文書について、同地区および朝来市教育委員会からの要請を受け、平成29年11月から地域住民と共に文書の整理を行っている。整理会は月1回のペースで行われ、これまで約70点の資料について目録を作成した。次年度も継続して目録作成を行う予定である。

⑤その他

朝来市教育委員会からの依頼を受け、朝来市和田山町の住宅から発見された資料の調査を行い、簡易整理と写真撮影を行った。今後和田山町域でも類似の依頼が増えてくると考えられるため、次年度以降、教育委員会とも相談し、対応を考えていく予定である。

2. 生野書院企画展への協力

生野書院で毎年開催されている企画展において、今年度は石川家文書の展示を行うことになった(平成29年度企画展「石川雀翁の世界」平成29年10月23日～12月3日)。これにともない、連携事業においてこれまで取り組んできた石川家

平成29年度 生野書院企画展

石川雀翁の世界

生野石川家の2代当主、石川伊兵衛長英は、家業の傍ら絵画や俳句をたしなみ、特に雀の絵を描くことを好んで、「雀翁」と号していました。今回の展示では、石川雀翁が残した絵画のほか、各地の文人との交流を示す資料を紹介します。

平成29年10月28日(土)～12月3日(日)

朝来市生野史料館 生野書院
〒679-3301 兵庫県朝来市生野町口銀谷356-1
TEL・FAX: 079-679-4336
◎入館無料
◎開館時間: 9:30～16:30
◎休館日: 月曜日(祝日の場合は翌日)

主催: 朝来市役所生野支所 生野書院
協力: 石川家・神戸大学大学院人文科学研究科地域連携センター

文書整理・調査の成果還元の一環として、展示協力を行った。この準備作業として、8月10日・11日に調査合宿を行い、展示品の選定と写真撮影を行った。また、室山京子が展示資料の翻刻を行った。

(文責・井上舞)

丹波市における連携事業

丹波市とは2007(平成19)年以来連携事業を継続している。本年度の事業内容は以下の通り。

1. 連続講座の開催

昨年度に引き続き、歴史講座(以下、連続講座)を開催した。今回は全体テーマを「楽しく学ぶ、丹波の歴史遺産」と改名したうえ、以下の日程でおこなった。

- ・6月24日 前田結城「江戸・明治の春日の農業と大納言小豆」於ハートフルかすが
- ・7月15日 西岡真理「発掘調査で分かった氷上地域の歴史」於氷上住民センター
- ・10月15日 小野塚航一「中世氷上郡の寺院文書を読む」於ライフピアいちじま
- ・11月18日 平岩泰典「幕末期旗本平岩氏の家政について」於青垣住民センター
- ・12月2日 津熊友輔・出水清之助「新井村役場関係の史料を読む」於柏原住民センター
- ・1月20日 黒田龍二「村と寺社建築の関係史」於山南住民センター

本年度は第2回に、昨年度に続いて丹波市教育委員会より西岡氏が登壇し発掘調査の成果にもとづく報告をおこなった。第4回の平岩氏は一般の方であるが、ご自身がかつて執筆された卒業論文に基づくお話をされた。第6回の黒田氏は本学工学研究科教授であるが、連続講座では初となる建築史からの講座を設けた。時代・分野ともに豊富な内容となり、来場した参加者からは概ね

好意的な評価を頂戴した。

また、第6回の講座修了後には青垣町より旧庄屋のお宅より文書調査の依頼があった。これについては近日中に調査を開始する予定である。

2. 市内古文書等の現地調査

本年度は歴史文化にもとづく地域活性化事業の一環として、春日町棚原地区と氷上町氷上地区を重点的に、下記の通り訪問した。

① 2017年7月1日～2日 氷上町氷上区有文書調査 於氷上公民館

【内容】氷上区有文書中の近世文書全点撮影作業／成果発表に向けての協議

② 8月20日 春日町歌道谷区有文書調査 於歌道谷公民館

【内容】区有文書の保管状態の追跡調査／区有文書虫干し作業の見学

③ 9月23日～24日 柏原町徳田家文書調査 於丹波市立柏原歴史民俗資料館

【内容】付番・目録カード作成作業

④ 11月26日 氷上町氷上区有文書調査 於氷上公民館

【内容】成果物刊行に向けての史料輪読会

⑤ 12月11日 氷上町氷上区有文書 於氷上公民館

【内容】成果物刊行に向けての史料輪読会

⑥ 12月18日 春日町棚原区有文書調査 於棚原公民館

【内容】区有文書を活かした大字誌刊行に向けての協議

⑦ 2018年3月2日 青垣町足立家文書調査 於足立宏幸氏宅(予定)

上記のうち、①については撮影データを大学に持ち帰ったあと、昨年度作成した氷上区有文書目録と画像をリンクさせる作業をおこなった。目録の表題部分をクリックすると、その番号と対応した史料画像が出てくるというシステムである。このデータを保存したメディアを近日氷上古文書同好会の方々に頒布する予定にしている。

3. 刊行物その他

神戸大学と丹波市との連携10周年を記念して、これまで丹波市広報紙『広報たんば』内で連載してきたコラムのうち厳選した30話を書籍化するのはこびとなった。書名は『ふるさと丹波の歴史を読む—小ばなし30話—』で、今年度末に刊行する予定である。

(文責・前田結城)

4. 丹波古文書倶楽部への協力

本年度も毎月第2土曜日に丹波市内の住民センターを会場に例会が開催され(8月・10月は休会)、木村がチューターを務めた。10月の例会後には、倶楽部会員だけでなく一般市民も参加できるフィールドワークが催された(今年度は山南町太田・慧日寺)。なお今年度より丹波古文書倶楽部の代表が川口利和さんから岸孝明さんへ交代した。

(文責・木村修二)

し、これまでの調査・研究成果をまとめた『加西に俘虜がいた頃—青野原収容所と世界—』の発行および、そのドイツ語訳版(加西市HP上で掲載)の作成に取り組んだ。2017年度は、青野原俘虜収容所の調査をさらに深化すべく、大津留厚(神戸大学名誉教授)、石井大輔(神戸大学非常勤)が防衛省防衛研究所および外務省外交史料館所蔵の資料調査を行った。また一連の調査成果をまとめたホームページ用の原稿を作成した。

2. 加西市北条町小谷の地域調査

2015年度に、加西市教育委員会より連絡が入り、加西市小谷地区の歴史文化調査にかんする協力要請があった。これを受けて、2016年7月より同地区にかんする調査を開始した。今年度は、昨年度に引き続き小谷区有文書の調査を行うとともに、現地でのフィールドワークを実施した。また、2年間の調査成果をまとめた冊子『わたしたちの小谷—残された歴史遺産をたどる—』および、ガイドマップ『「わたしたちの小谷」を歩く』を作成した。また、2月17日・18日に現地で成

連携協定にもとづく加西市との連携事業

加西市と神戸大学との連携協定は、2009年5月16日に締結された。これにもとづき、本年度は次のような事業を行った。

1. 青野原俘虜収容所にかんする資料の収集、およびHP用原稿の作成

第一次世界大戦中に加西市に設置された青野原俘虜収容所については、当初小野市好古館との事業のなかで、写真資料の調査が行われてきた。2012年以降は加西市市立図書館郷土資料係と、2015年度からは市教育委員会生涯学習課市史文化財係と共同調査が行われるようになった。2015年度・2016年度は、青野原俘虜収容所開設100周年に関わる企画に協力



わたしたちの小谷
—残された歴史遺産をたどる—

◆ 成果報告会のご案内 ◆

1日目
平成30年2月17日(土) 13:00 ~ 15:00
場所: 小谷公民館
報告: 井上舞(神戸大学大学院人文科学研究科地域連携センター研究員)
「わたしたちの小谷」を見つけよう!
小野塚航一(神戸大学大学院人文科学研究科修士)
「絵図から見る小谷」

2日目
平成30年2月18日(日) 13:00 ~ 16:00
場所: 小谷公民館
★小谷の区有文書の整理作業を行います。
参加・見学は自由です。お気軽にご参加ください。

加西市北条町小谷と、神戸大学大学院人文科学研究科地域連携センターは、平成28年度より小谷の地域歴史遺産掘り起こしのための調査を開始しました。
このたび、2年間の調査の成果を地域の皆様にお伝えするために、成果報告会を開催いたします。ひとりでも多くの皆様のご参加をお待ちしております。

小谷区長 植田通孝
神戸大学大学院人文科学研究科地域連携センター

問い合わせ
◆ 植田通孝
TEL: 090-6900-0267
◆ 地域連携センター(田田・井上)
TEL: 078-803-5566

文化庁
Agency for Cultural Affairs
Government of Japan

主催: 加西市北条町小谷・神戸大学大学院人文科学研究科地域連携センター、協力: 加西市教育委員会

果報告会を開催し、井上舞と小野塚航一（神戸大学院生）が報告を行い、また、地域住民を交えた区有文書の整理会を行った。2日間の成果報告会で、のべ34名の参加を得た。

（文責・井上舞）

尼崎市における連携事業

本年も引き続き尼崎市立地域研究史料館の専門委員を務め、地域資料の活用について助言を行った。

（文責・市沢哲）

三木市における連携事業

1. 三木市史編さん支援事業

2016年度より三木市教育委員会教育企画部文化スポーツ振興課市史編さんグループにおいて進められている新三木市史編さん事業について、今年度も「受託型協力研究」として特命教員を派遣した。

昨年度末の段階で、市史編さん委員会および通史編・地域編それぞれの専門委員会が立ち上げられており、今年度より本格的に具体的な調査研究活動が開始された。なお、新しい市史の書名として、9月28日の市史編纂委員会において「新三木市史」と決定されたことが報告された。

①市史編さん委員会

・9月28日 於 みき歴史資料館

②通史編専門委員会

・6月26日 於 みき歴史資料館

・12月14日 於 みき歴史資料館

③地域編専門委員会

・7月6日 於 みき歴史資料館

三木市史編さん事業の調査研究活動については、各専門委員会に配置された部会単位で行われる。通史編専門部会については古代、中世、近世、近現代、文化遺産、考古、自然環境の7部会で構成され、各部会ごとに今後の調査方針等について議論が交わされた。なお、近現代部会については、来年度より近代部会と現代部会の2部会に分割されることになる。通史編各部会の活動状況については下記の通りである。

・6月16日、7月12日 古代部会による市内巡見調査

・6月26日 第1回文化遺産部会

・8月5日 第1回近世部会

・8月10日 考古部会現地視察

・9月8～10日 近世部会史料調査

・9月15日 第1回自然環境部会

・9月12日 考古部会市内巡見調査

・9月18日 第1回近現代部会

・10月9日 文化遺産部会市内巡見調査

・11月25日 第1回古代部会、第1回中世部会

・12月22日 古代部会現地視察

地域編の調査研究活動については、地域住民を中心とする地域部会によって担われている。今年度は、昨年度に立ち上げられた口吉川部会に加え、新たに志染部会の活動が開始された。各地域部会では地域編編さんに向けて、月1回程度の協議のほか、地域内の史料や文化遺産の調査に取り組んでいる。地域部会の活動については下記の通りである。

①口吉川部会

・4月12日 第3回口吉川部会

・4月22日 まちあるき調査

・5月10日 第4回口吉川部会

・5月23日 篠原神社（三木市口吉川町）史料調査

・6月14日 第5回口吉川部会

・7月13日 第6回口吉川部会

・7月20日 口吉川町大島区有文書調査

- ・8月17日 第7回口吉川部会
- ・8月23日 中野維克・稲美学園墓誌調査
- ・9月14日 第8回口吉川部会
- ・10月7日 加納会総会調査
- ・10月26日 第9回口吉川部会
- ・11月8日 第10回口吉川部会
- ・11月15日 蓮花寺（三木市口吉川町）史料調査
- ・12月2日 黄金塚古墳（三木市口吉川町）、口吉川町桃坂区有文書調査
- ・12月6日 吉祥寺（三木市口吉川町）史料調査
- ・12月7日 第2回石上山登山調査
- ・12月13日 第11回口吉川部会
- ・1月12日 中野正臣家史料調査
- ・1月13日 土居興一家史料調査
- ・1月18日 稲美三千男家史料調査
- ・1月24日 第12回口吉川部会
- ・1月25日 口吉川町南畑区有文書調査

②志染部会

- ・11月2日 第1回志染部会
- ・11月30日 村上家文書調査、志染部会地区巡見調査
- ・12月21日 第2回志染部会
- ・1月18日 第3回志染部会

その他の作業としては、三木市において雇用された「市史専門員」2名および「市史編さんボランティア」を中心として、市内自治会や旧家における史料調査・整理を実施するとともに、その成果の一端を示すため、11月11日から12月24日まで、三木市立みき歴史資料館企画展として「地域の史料たちⅡーみんなが主役の市史編さんー」と題する市史編さん企画展を実施した。関連企画として12月10日には奥村弘氏による「市民が主役の自治体史」と題する講演会が開催された。

また大学教育と市史編さん事業の連携として、佐々木祐人文学研究科准教授および文学部社会学教室の学生・院生による社会調査が実施されている。社会学教室の調査については、現代部会の成果として市史編さん事業に反映される予定である。また、2月15日～16日には昨年引き続き旧玉置家住宅において神戸大学古文書合宿が開

催予定であるなど、大学教育と市史編さん事業との連携活動も進んでいる。

市史編さん事業に関わる今年度の刊行物としては、『市史編さんだより』の4号（9月27日）、5号（3月発行予定）および市史編さん紀要『市史研究みき』第3号（3月発行予定）がある。

2. 商工観光課との連携事業

2010年度より文化庁の地域伝統文化総合活性化事業（「三木市文化遺産総合活用活性化事業」）として、市民グループ「旧玉置家住宅文書保存会」による襖下張り文書保存活動が行われたが、事業終了後も市民グループ主体の活動が維持され、三木市商工観光課とともに同会の活動支援を実施している。6月21日に同会および三木市商工観光課との協議が行われ、今後の活動への助言を行うとともに、同会の主催するイベントへの協力を行うことが確認された。

3. 三木市立みき歴史資料館

2017年5月に、三木市における歴史文化の拠点となるべく開館した「三木市立みき歴史資料館」の事業について、館長の諮問機関である「みき歴史資料館協議会」の委員（会長）として参画し、同館の運営等に関わる助言を行った。

（文責・川内淳史）

三田市との連携事業

昨年度に引き続き「旧三田藩主九鬼家資料の総合調査」という課題名で、幕末維新期を中心とした九鬼家資料の分析と関連史料の調査活動をおこなった。本年度はとくに、三田藩の廃藩に関する政治動向が詳細にわかる「報国蛙息」という稿本史料について、その翻刻と読解作業を奥村弘、前田結城はじめ多数の大学院生とともにおこなっ

た。以上の調査の成果は、『三田藩廃藩と福澤諭吉』(仮)と題した史料集+論説として書籍化する予定である。

(文責・前田結城)

篠山市における連携事業

1. 篠山市立中央図書館資料整理サポーターの活動支援

本活動は、2013年から篠山市立中央図書館を会場としておこなわれている。本年度は2017年1月15日現在で計6回開催された。主な活動内容は『丹南町史』編纂資料の目録作成であるが、昨年度より史料翻刻など新たな活動を展開している。これらの通常の活動にくわえて、2017年8月には史料整理活動の指導・助言にあたっている松本充弘君(人文学研究科博士課程後期課程学生)と資料整理サポーターメンバー有志とによる篠山市内大山・雲部地区の巡検活動もおこなわれた。

2. 「古文書合宿」の実施

文学部「地域歴史遺産保全活用演習」および文学研究科「地域歴史遺産保全〔企画〕演習」等の授業を、農学部篠山フィールドステーションにおいて、2017年8月30日～9月1日(水～金)の2泊3日で実施した。本合宿は、史学専攻の学生や将来博物館学芸員をめざす学生が、近年保存・活用のニーズが高い地域歴史資料について、その基本的な整理作業の習得をめざすものである。本年度は受講生一同で、「中西啓勝家文書」の目録カード再確認・訂正作業と、篠山市立中央図書館所蔵「園田家文書」の目録カード新規作成作業をおこなった。当日は上述の資料整理サポーターの方や篠山市立中央図書館の職員の方も視察にいられた。最終日には史料整理法について学生間で活発な議論がおこなわれた。

3. 篠山市立中央図書館所蔵古文書の整理・公開に向けての支援事業

同館との連携事業は資料整理サポーターの活動支援がこれまで主であったが、本年度は同館所蔵の古文書について、目録を作成し、今後増大が見込まれる地域史料へのレファレンスに備えるという事業も新たに展開した。同館にはこれまでも「家のルーツ調べ」等の事由により、通常架蔵されている図書とは別に、古文書等の歴史資料の閲覧希望があったそうだが、司書の方々は対応に苦慮されていたという。本年度は手始めに旧味間新村や旧黒田村に関する史料が豊富に含まれている「園田家文書」につき、目録作成を上記「古文書合宿」にておこなった。目録はすでにデータ化が完了しており、近日図書館に渡される予定である。

4. 篠山市立中央公民館主催の古文書入門講座

松本充弘君が講師となり、前掲「中西啓勝家文書」を用いて計2回の講義をおこなった。

5. 「丹波篠山の日本遺産をめぐる篠山ウォーキングツアー」への参加

2017年12月4日に開催された丹波篠山の日本遺産をめぐる篠山ウォーキングツアー「国史跡の二つの城をめぐるコース」に、松本充弘君が参加した。八上城跡などを見学した。

6. 「第12回篠山市・神戸大学地域連携フォーラム」での活動報告

2018年1月20日(土)篠山市立四季の森生涯学習センターにおいて開催された「第12回篠山市×神戸大学地域連携フォーラム」において、木村修二(人文学研究科特命講師)より「篠山市における人文学研究科(地域連携センター)の取り組み」と題し、2017年度における人文学研究科の篠山市での活動報告がおこなわれた。

(文責・前田結城)

明石市との連携事業

1. 明石藩関連資料調査・公開業務委託

本事業の主眼は、明石市立文化博物館所蔵「黒田家文書」の整理・分析を踏まえて、毎年同館で開催される企画展「明石藩の世界」の実施協力をおこなうことにある。この企画展は2013年度より開催されており、本年度で5回目となる。昨年度同様明石市・明石市立文化博物館と神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターが主催となり、大学側が主に展示の立案・構成を担当した。第5回の企画展は「明石藩の世界Ⅴ 明石藩の幕末維新」と題して2017年9月16日から10月22日（日）にかけて開催された。本展では、異国船来航から奉勅攘夷、長州戦争、戊辰戦争、そして廃藩置県へと至る明石藩の幕末維新史を黒田家文書などの史料をもとにたどるとともに、幕

企画展 明石藩の世界Ⅴ
明石藩の幕末維新

幕府に協調し、その後、新政府になびく!? 明石藩の幕末維新とは…

平成29年9月16日(土) ▶ 10月22日(日)
9時30分～18時30分(入館は閉館の30分前まで) ※月曜日休館(祝日は開館)

観覧料 大人：200円／大高生：150円
中学生以下無料

※20名以上の団体は2割引、65歳以上の高齢者、身体障害者、手帳：療育手帳・精神障害者保健福祉手帳提示の方、介護が必要な場合は介護認定書、シニアいきいきパスポート(任意)を提示。

主催 明石市立文化博物館、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
後援 兵庫県、兵庫県教育委員会、明石市教育委員会、公益財団法人兵庫県芸術文化協会、公益財団法人明石文化財団(明石市)、一般財団法人兵庫県文化財団、神戸新聞社、NHK放送センター、サンテレビジョン、学芸者関西、明石ケーブルテレビ

明石市立文化博物館
〒673-0846 明石市上本町1-3番1号 TEL(078)918-5400

末期の藩領内社会の様相を最近発見された地域所在史料から、また維新後の明石藩士族の歩みについて黒田家文書などの史料から描いた。企画展と関連するイベントは以下のとおり。

・記念講演：2017年10月1日

前田結城「幕末維新と明石藩—展示史料を読みとく—」

加納亜由子氏「武家社会の解体と士族のくらし」

・ギャラリートーク 9/16(土)、9/30(土) ※10/22(日)は台風のため中止

2. 明石市における地域史料の調査研究

本事業は2015年度からの継続である。本年度は西国街道大久保宿本陣の場所にあり、本陣(安藤助太夫)の分家筋にあたる大久保陽家について、同家の蔵に保管されている文書群を整理し、今後の活用に備える作業を中心におこなった。調査は基本的に大久保町大久保公民館にておこない、メンバーとして神戸大学大学院人文学研究科地域センターから前田結城が、その他大学側から院生が常時4名程度参加し、調査協力として明石市市民生活局文化・スポーツ室文化振興課文化財係(市史編さん担当)があたった。本年度の調査日程は以下のとおり。

第1回 2017年6月17日～18日

第2回 8月6日～7日

第3回 10月28日～29日

第4回 12月23日～24日

第5回 2018年2月27日～28日

以上の調査により、文書箱30箱あまりの近世～近代文書の付番・目録カード作成作業のほぼすべてが完了し、近世分の写真撮影が進行した。また、調査の成果の一部は先述の「明石藩の世界Ⅴ 明石藩の幕末維新」において発表した。

現地調査は本年度中に終了する予定である。来年度は現地での成果報告会の開催するとともに、安藤陽家文書目録・解説を所蔵者と明石市史執筆者に頒布する予定である。

3. 横河家文書調査・公開業務委託

本事業は今年度からの新規事業である。昨年度末、播州東二見にルーツの一つをもつ横河家より明石市に2,982点の史料が寄贈された（明石市指定文化財に指定）。文書の内容としては、横河家の先祖が大坂冬の陣において一番槍を遂げたことに関わる徳川家康の感状、その他家の由緒や幕末期の動向に関する史料などからなる。以上の新規寄贈分のほか、既に明石市立文化博物館に所蔵されていた分もあるが、本年度はまず前者の新規寄贈分2900点余りの付番・撮影・目録作成作業をおこなうことにした。

付番・撮影作業は明石市立文化博物館において前田結城と大学院生によっておこなった。日程は第1回が2017年6月3日～4日、第2回が8月23日・28日であった。撮影データは大学に持ち帰り、それにもとづいて順次目録の電子データ化をおこなっているところである。

特筆すべきこととして、第2回の調査途中、横河家の家系で播州東二見にいた室谷勘七宛てに東二見村の漁師らが出した礼状が発見された。この史料は近世中後期における横河家と東二見地域との関わりが垣間見えるものであり、市指定文化財中に含まれた地域史料として、旧明石市立図書館内に開設された「ふるさと図書館」において、2017年10月3日より一般公開されている。

(文責・前田結城)

たつの市域をめぐる連携活動

神戸大学近世地域史研究会

神戸大学近世地域史研究会は原則月1回日曜日に開催している。構成メンバーは、阪神地域・播磨地域・大阪府内在住の約15名の市民の方々と、主な活動は古文書翻刻作業のための読み合わせである。今年度は、たつの市龍野町所在善龍寺所蔵文書の翻刻に取り組んでいる。また、11月

5日には本センター学術研究員の井上舞を講師として、神崎郡歴史民俗資料館、柳田國男・松岡家記念館および大庄屋三木家住宅見学を含む福崎町辻川地域のフィールドワークをおこなった。

同研究会では割り振られた担当箇所を発表する形をとっており、報告担当者は翻刻文を読みあげるだけでなく、内容を理解するため語句や関連文献を調べて発表をおこなう。参加者が疑問や質問など自由に発言しやすい雰囲気づくりを心がけている。また、世代間交流を生み出す学びの場となるよう、学生への参加を引き続きおこなっていく必要があると考えている。

なお、本研究会で翻刻を進め編集をおこなった『「観聞記」の世界』(三)を2017年3月31日に発行した。

(文責・室山京子)

佐用町における連携事業

1. 利神城跡の国史跡指定に関する準備への助言
利神城跡国史跡指定記念シンポジウム(2017年12月17日於佐用町)のコーディネーターを市沢が担当した。

(文責・市沢哲)

2. 佐用町域における文化財ハザードマップづくり
科研(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立」の保存科学グループメンバーを中心として、2009年8月発生台風9号(佐用町大水害)の被害を受けた佐用川流域の浸水シミュレーション結果と、その周辺に所在する歴史資料の被害状況を重ね、文化財ハザードマップの精度向上のための作業をおこなった。現地情報については佐用町教育委員会の藤木透氏の、シミュレーション作成は神戸大学工学部小林健一郎氏の協力を得た。なお、本研究に関する発表は以下の通りである。
・天野真志・小林健一郎・松下正和・河野未央・

松岡弘之・吉川圭太・内田俊秀・藤木透「兵庫県佐用町における浸水シミュレーションの文化財防災への活用」(文化財保存修復学会第39回大会ポスターセッション、於金沢歌劇座、2017年7月1日)

・松下正和「兵庫県佐用町における浸水シミュレーションの文化財防災への活用と課題」(第12回地域歴史資料学研究会・日伊の文化財情報システムに関する研究会、於神戸大学、2017年11月13日)

・内田俊秀「佐用町内の文化財ハザードマップづくり」(兵庫県文化遺産防災研修会 in 播磨西、於日本城郭研究センター、2017年11月28日)
(文責・松下正和)

伊丹市における連携事業

1. 伊丹市立博物館への協力

今年度は、伊丹市立博物館において「平成29年度秋期企画展 伊丹の鉄道～くろがねの響きとともに」(2017年10月7日～11月21日)が開催された。本展は、奥村弘・久野洋監修/伊丹市立博物館編『伊丹市立博物館資料集12 明治期伊丹の鉄道』(伊丹市立博物館、2017年3月刊行)の成果にもとづいて企画されたものである。11月25日には関連講演会「福知山線の誕生～歴史的・技術的観点から見る」が開かれ、久野洋が「鉄道敷設からみる伊丹の近代化」と題した講演をおこなった。本講演会は約100名の参加者を得て、きわめて盛会であった。

2. 小西酒造株式会社所蔵資料をめぐる事業

小西酒造株式会社が所蔵する「小西家萬歳蔵資料」の目録化と撮影を進めた。本調査は、科学研究費補助金基盤研究(B)「小西家資料の総合的研究」(研究代表者飯塚一幸、分担研究者奥村弘ほか、平成26～30年度)にもとづく研究プロジェ

クトとも連携して、月1回のペースでおこなわれた。毎回、神戸大学・大阪大学の院生・学生等が参加し、今年度は新たに近世の板木の調査に着手した。

(文責・久野洋)

福崎町との連携事業

福崎町とは、2009年度より共同研究「福崎町の地域歴史遺産掘り起こし及び大庄屋三木家住宅活用案の作成等」を開始した。本年度については、以下の事業を行った。

1. 松岡家関係資料調査

2018年は、松岡五兄弟のひとり、松岡静雄の生誕140年にあたる。このため福崎町立柳田國男・松岡家記念館では、2018年度特別展として「松岡静雄展(仮)」が企画されている。この準備の一環として、今年度より松岡静雄についての調査を開始した。具体的には、関連資料の収集および記念館所蔵資料の内容調査を行った。また、平成30年1月13日～15日に、記念館学芸員中村文音とともに、松岡静雄が晩年を過ごした神奈川県藤沢市鶴沼において資料調査を行った。あわせて、国立国会図書館で資料の収集を行った。

2. 山桃忌への参加

平成29年8月5日に開催された、第38回山桃忌「女性の目から見た柳田國男と民俗学」のシンポジウムに、井上舞がパネリストとして参加した。

3. 大庄屋三木家住宅民俗資料調査

大庄屋三木家住宅には多数の民具が所蔵されており、これについては1996年時に調査が行われている。ただし、その後の追跡調査が十分できていないこと、また主屋の保存修理工事のために民

具の移動があったことなどから、民具の所在が十分に把握できていない状況が発生していた。このため、福崎町教育委員会の依頼を受けて、大庄屋三木家住宅所蔵の民具調査を行った。調査は、9月から1月にかけて5次にわたって実施し、前回調査で民具につけられたタグと、目録との照合作業を行った。

4. 広報での成果還元、成果報告書の作成等

1の調査成果については、福崎の広報誌『広報ふくさき』で連載している「松岡五兄弟」において、地域住民に成果を還元している。また、今年度とりくんだ事業についてまとめた報告書を、年度末に発行予定である。

(文責・井上舞)

最後に兵庫県立歴史博物館館長の藪田貫氏が「多田院御家人調査と栗野頼之祐」をそれぞれ報告した。進行は文責者が勤めた。参加者は約90名だった。

2. 猪名川町文化財審議委員会

今年度の第1回目の委員会は8月22日(火)に猪名川町役場第2庁舎委員会室で開催され(以下会場同じ)、今年度の文化財事業計画などが審議された。ただ、今年度は諸事情から委員会は2回だけの開催となり、第2回目は、3月28日(水)に予定されている。なお、文責者は平成27年度より委員を委嘱されてきたが、任期満了により今年度をもって退任することになっている。

(文責・木村修二)

猪名川町における連携事業

1. 猪名川町における多田院御家人関係文書調査

今年度は、平成26年度より続けられてきた本調査事業の最終年だったため、これまでの調査を総括することを事業目標に設定され、総合的な報告書発行と猪名川町民へむけた報告会の開催が主要事業となった。なお、報告書は、本稿執筆段階ではまだ発行されていないが、槻並・田中家、上阿古谷・仁部家、島・平尾家の各文書から得た成果をまとめることになっている。

2月17日(土)には、町民へ向けた多田院御家人関係資料調査プロジェクト報告会「多田院御家人と多田荘の歴史を紐解く」を猪名川町立中央公民館で開催した。まず、猪名川町教育委員会の青木美香氏より「(趣旨説明)猪名川町の多田院御家人」と題して報告があったあと、兵庫県立歴史博物館の前田徹氏が「多田院御家人の由緒としての中世文書」を、関西大学非常勤講師の吉川潤氏が「戊辰戦争を戦った多田院御家人たち」を、

姫路市香寺町における連携事業

1. 『村の記憶』を書き継ぐ会

本会は、2017年5月19日に開催された香寺歴史研究会の総会に諮って立ち上がった。各自治会長の協力によりメンバーの募集がおこなわれた結果、会員18名で発足した(内訳は犬飼6人・行重5人・中仁野2人・広瀬北1人・相坂1人・土師2人・北恒屋1人)。この事業は、兵庫県中播磨県民センターの公募する「地域文化継承応援事業」に応募し、7月採択された。本年度は例会を6月・8月・10月・12月の4回開催、このなかで13名からレポートの提出があり、その成果は『新・ムラの生活史 I』(B5・80ページ)として2月末に刊行される予定である。

2. 第4回フォーラム「大字誌をつくる」

これについては、以下の要領で開催した。

①テーマ：『ムラの記憶』を書き継ぐ

②日時・会場：平成30年2月15日、香寺公

民館多目的ホール

- ③基調講演：木村修二「住民主体の〈地域史づくり〉ーヨソモノの目からー」
- ④発表：高田雅勝氏（中仁野地区）、小川啓二氏（行重地区）、金井貞文氏（犬飼地区）（以上『村の記憶』を書き継ぐ会会員）
- ⑤参加者：47人（研究会員と自治会役員・町民等）

3. 町内巡検

11月26日、香呂地区で実施された。参加者は27名。

4. 史料保存問題

2017年6月30日、大槻守氏が市教委生涯学習部長に面談し、町史関連の史料保存について要望したが、とくに進展はなかった。

（文責・前田結城）

大学協定に基づく大分県中津市との連携事業

神戸大学と大分県中津市との包括的連携協定の一環として、歴史文化領域については、本年度、新たに開館予定の中津市歴史博物館についての中津市歴史博物館推進委員会の委員長に奥村が、神戸大学地域連携推進室特命准教授の松下正和が副委員長に就任した。同委員会は、第1回が7月27日、奥村、松下が参加して行われた。また第2回委員会が、2月2日に中津市で行われ、奥村が参加するとともに、会議に先立ち、中津市長、中津市学芸員の方々と懇談し、地域遺産を活かす拠点としての博物館のあり方について、議論を深めた。この委員会も来年度、引き続き行われる予定である。また3月16日には、そのために中津市教育長が本学に来訪の予定である。

（文責・奥村弘）

協定に基づく人間文化研究機構と東北大学との連携による歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業

2018年1月26日、人間文化研究機構の機構長と東北大学総長、本学学長により「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」の連携・協力に関する基本協定が締結された。これは、大規模災害時の地域の歴史資料の保全、および地域文化の継承と創成のための実践的教育研究について、日本各地の大学のネットワークを構築、拡大することで、各地の大学の地域歴史文化継承についての教育研究機能を強化するとともに、協定を締結した（後掲参考資料参照）。この協定は、阪神・淡路大震災以来の歴史資料ネットワークと人文学研究科地域連携センターの成果と、これまで人文学研究科と国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館との学術連携協定、神戸大学と東北大学との震災復興及び災害研究についての協定による関係機関の教育研究活動との蓄積の上に締結されたものである。

本年度は、これに基づき、史（資）料ネットワークの事務局が設置されている全国の大学と歴史資料の保全・活用について下記の日程で、事業についての協議を行った。2018年1月20日岡山大学、1月31日愛媛大学、2月10日東北大学、3月8日鳥取大学、3月9日鳥根大学、3月12日には、人間文化研究機構において、3機関によるネットワーク事業準備チームの会合が行われ、2018年度から2021年度までの4年間の基本計画と、2018年度の具体的な計画が決定された。人文学研究科地域連携センターは神戸大学の主導機関として、①西日本での大規模地震を想定した連絡協議会の設置とその機能強化、②全国的な大学ネットワーク形成のための協議会開催、③歴史文化遺産ハザードマップのプロトタイプ構築研究、④被災資料、震災資料の保全支援とその教育、研究、社会的活用の推進、⑤これらの成果に基づいた歴

史文化資料を活用した教育活動の実践を担うこと
となった。

(文責・奥村弘)